

日本建築学会 環境工学委員会建築設備運営委員会 2011 年度第 1 回 議事録

- A. 日時 2011 年 4 月 27 日 (水) 16:00~18:35
B. 場所 建築学会 (301 会議室)
C. 出席 主査：羽山広文、幹事：柳井崇、郡公子、委員：(赤司泰義)、(秋元孝之)、石川幸雄、石野久彌、(猪岡達夫)、宇田川光弘、(川瀬貴晴)、岡建雄、古賀誉章、(小林陽一)、(坂上恭助)、千葉隆文、(佐野武仁)、(高井啓明)、(高草智)、(清水昭浩)、仲野章生、(中野淳太)、二宮秀與 [代理：木下泰斗]、(野部達夫)、(本間睦朗)、(吉田治典)
(())付きは欠席、敬称略・順不同)

D. 配付資料

- 資料 No.1-1 2011 年度第 1 回建築設備運営委員会議事次第
資料 No.1-2 2010 年度第 5 回建築設備運営委員会議事録案
資料 No.1-3-0 2011 年度建築設備運営委員会名簿
資料 No.1-3-1 2011 年度環境設備に関する学会規準 (AIJES) における性能レベル検討小委員会名簿
資料 No.1-3-2 2011 年度環境選択型空調設計小委員会名簿
資料 No.1-3-3 2011 年度気象データ小委員会名簿
資料 No.1-3-4 2011 年度次世代排水システム小委員会名簿
資料 No.1-3-5 2011 年度環境建築設計法小委員会名簿
資料 No.1-3-6 次世代排水システム小委員会第 12 回議事録案
資料 No.1-4-1 2011 年度建築設備シンポジウム 第 1 部講演候補案
資料 No.1-4-2 第 7 回建築設備シンポジウム (第 2 部企画案)
資料 No.1-4-3 「震災にともなう電力供給不足を受けて」に関する講演 3 案
資料 No.1-4-4 第 6 回建築設備シンポジウム「環境建築の最先端設計技術 Part II」プログラム

D. 議事：

1. 前回議事録が確認され、了承された (資料 No.1-2)。
 2. 委員会の名簿確認と活動報告
- 0)建築設備運営委 (羽山主査、資料 No.1-3-0)
- ・ 名簿を確認した。
- 1)環境設備に関する学会規準 (AIJES) における性能レベル検討小委 (石川主査、資料 No.1-3-1)
- ・ 地震の影響で予定の審議ができなかった。今後の委員会で今年度活動方針を審議する。
- 2)環境選択型空調設計小委 (主査・委員不在、資料 No.1-3-2)
- 3)気象データ小委 (木下代理、資料 No.1-3-3)
- ・ EA 気象データ 2007 年分までの発行準備を行っている旨の報告があった。
- 4)次世代排水システム小委 (古賀幹事、資料 No.1-3-4、6)
- ・ 1/11 開催 (昨年度第 12 回) 委員会の議事録が紹介された。昨年秋のシンポジウムのまとめと設備設計図書に関する基準改正に関する審議を行った。3 月開催予定だった委員会は地震のため延期された。今年度は、基準の草案を作ることが活動の中心となるとの報告がされた。
 - ・ 小委員会と傘下の WG は一体で活動しており、WG の活動内容も委員会報告に含まれる。
- 5)環境建築設計法小委 (羽山主査、資料 No.5-4-5)
- ・ 4/27 開催 (今年度第 1 回) 委員会の内容が報告された。環境建築事例紹介と設備シンポに関する審議が行われ、次回には立川市庁舎の視察を行う予定である。
- 6)ガラス建築快適環境 WG (佐野主査)
- ・ メンバは調整中である。ガラス建築の出版物は中国でも発行される予定である、今後は、ガラス建築の快適性に着目した書籍の出版を目指したいとの報告がされた
- 7)前年度「建築一体化設備のデザイン」出版小委 (石野主査)

- ・今年5月に「見る・使う・学ぶ 環境建築」を発刊予定であり、著者はデザイナー、設備設計者、研究者である、今後シンポジウムを開催する予定であるとの報告がされた。

3. 2011年度第7回建築設備シンポジウムについて（資料 No.1-4-1～4）

1)第1部、第2部の講演内容案について説明された（柳井幹事、郡幹事、石野委員）

- ・第1部は最新の環境配慮建築の事例紹介として、立川市庁舎、飯野ビル、大林技研、ソニーW計画、栃木県庁舎を初めとする候補が考えられるとの説明がされた。
- ・第2部は昨年度と大きく異なり、東日本大震災に関連する講演で構成する案が説明された。
- ・第2部に関して、3つの講演案が紹介された。震災に伴う電力消費削減や低照度化、自家発電増強などの工夫を低炭素化の技術・手法にどのように活用・発展させるかという着眼である。

2)講演内容について審議され、種々の意見が出された。

- ・停電対策などに関連する短期的テーマと、エネルギー計画などの長期的テーマが考えられるが、長期的なテーマに繋がる内容がよい。
- ・第1部に関して、BCPを考慮した環境建築を選ぶことが考えられる。しかし、従来のBCPは被害発生から短い期間の復旧を対象としていて、今後求められるBCPと必ずしも一致しない。
- ・今年度と昨年度の夏期エネルギー消費量の違いに関心があるが、データの公開しやすさを考えると1件ではなく複数のデータがあるとよい。
- ・第1部で震災に強い建築設備、第2部で電力消費抑制策を取り上げることが考えられる。
- ・被災状況の調査報告も考えられるが、結果を公開可能かどうかの問題が起きる恐れがある。
- ・震災に関する特別委員会が別に設置され、学会としても震災対策のための大きな流れがある。また、調査解析や技術提案のための時間が十分ではない段階でのシンポジウム開催となることも勘案し、無理のない講演内容にするとよい。
- ・第2部に関して、設計技術のほかに施工技術も含めてはどうか。
- ・第2部の講演候補として、通信網の信頼性とその建築への応用に関して、東京理科大の渡邊均教授にお願いする案が考えられる。

3)プログラムの具体化に向けて、以下の方針を決めた。

- ・シンポジウムのテーマを「環境建築の最新性能」とし、第1部のテーマは「話題の環境建築」、第2部は「震災に学ぶ建築設備」とする。
- ・第1部の講演に関し、自薦・他薦を含め委員から推薦を募る。講演内容は、環境建築の紹介に加え、震災を踏まえた今後の設計法・運用法への示唆を可能な範囲で含めて頂く。
- ・第2部の講演内容および講演者に関し、各小委員会で検討し推薦を頂く（推薦期限：5/23(月)）。もし、推薦がない場合にはその旨通知いただく。今年度は、震災に関係しない委員会報告は講演に含めないことにする。
- ・小委員会から推薦された講演候補を考慮し、プログラム案を次回の委員会で審議する。5月の環境工学本委員会へはシンポジウムのテーマとプログラム概要を提出する。また、シンポジウム開催予告を9月の会告に掲載するには、6月中にプログラムを決める必要がある。
- ・参加者を増やすための企業・大学への呼びかけを、9月頃に担当を決めて行う。

4. 2011年度大会投稿状況

- ・大会プログラム編成の部門調整会議について、石野委員より報告された。部門間の移動は少なかつた。また設備への投稿は増えた（環境全体で約1250編に対して設備は約230編）。再々分類については、設備応用のように投稿しやすい分類がある一方、投稿がゼロの分類もあった。

5. 次回予定 2011年5月26日(木) 17:00～ 於：建築会館

(文責：郡)